

平成 25 年（2013 年）夏、大滝不動尊・不動滝散策記

大滝会特別会員 鹿摩貞男

はじめに

平成 25 年 6 月 30 日（日）、山口屋散人さんにご案内を頂いて「大滝不動尊・不動滝」を散策してきましたので報告します。

この「大滝不動尊・不動滝」の状況については、下記の通り当HPにあるように貴重な報告（写真、動画）が既になされているところです。

しかし、数年のタイムラグがあると云うことで最新の近況報告（写真）ということでした承頂ければ幸甚です。

- 「まぼろしの滝の存在を確認」（2008-11-3）

山口屋散人様一行（探索経路図面もあり）

<http://ootaki.xsrv.jp/pagell18.html>

- 「お不動様（不動滝）とまぼろしの滝」（2009-6-7）

木村義吉様・柁木新吉様・渡辺正義様・渡辺光義様

<http://ootaki.xsrv.jp/pagel39.html>

また、大滝不動尊・不動滝の由来（PDF 版 41 頁）や参道となる赤岩道（PDF 版 24 頁、31 頁）については、当HP掲載の『わが大滝の記録』に詳しく紹介されています。

（『わが大滝の記録』PDF 版、<http://ootaki.xsrv.jp/ootakipdf.html>）

大滝不動尊と参詣道（薪炭運搬路）について

『わが大滝の記録』（PDF 版）によると不動尊について次のように述べている。

「大滝より南西へ大滝川に沿い山道を遡り、古屋敷（注）を経て約 7km（ママ）の上流に大滝の『お不動様』として、親しまれる滝あり、古くから靈験あらたかなるものありとして、近在大笹生、中野福島方面はもとより、山形、宮城県方面からの信者、講中の参拝多し、滝の傍らに不動尊を祀る。」

また、その大滝不動尊の由来について引き続き次のように記している。

「明治初期の頃俵上人（笹谷谷地出身）によって開山されたもので、毎年早春（八十八夜）にお祭りありて、滝にうたれて行をする者、祈願をする者、又お籠もりをする者など行者信者で賑わう。」（傍点筆者、PDF 版 41 頁）。

参道となる山道については、現在手入れが行き届いているとは云いがたいけれども、現地の不動尊自体は管理よく維持されている様子なので、現在も引き続き各種行事がおこなわれているのであろう。

その開山が、赤岩道の設置（昭和 7 年（1932 年）9 月）より以前なので、万世大路開通（明治 14 年（1881 年）10 月）前後には、既に大滝集落からの参道があったものと考えられる。

赤岩道開設後は、「大滝不動さまの参詣の通路でもあったので道標を立て、峠には丸木の腰掛けを

備え、谷間の清水に金明水、銀明水などの立札を立て、小川の丸木橋を補修して山道の整備をはかり多くの参詣者の便利をはかった」(PDF版30頁)という。

往時の賑やかさが偲べれます。

※注 古屋敷

赤岩道起点から約1.5km進んだ所で不動滝に行く林道が分岐するその辺りを古屋敷地区という。かつては畑もあり耕作されていたようである。現在廃屋があるが、これは伐採作業用の宿泊小屋である。

関連の話題として炭焼きとその運搬道の件についてはじめに触れておきたい。昭和35年頃には、不動滝の上のブナ(樺)林でも炭焼きが盛んにおこなわれたそうである。生産された薪炭の運搬道として使用するため、大滝不動尊の参詣道となっていた山道の整備(拡幅、橋梁)を大滝集落の関係者の方々でおこなっている。古屋敷までリヤカーが通行可能となるように整備したという。それから赤岩道についても、徒歩道だったので所々を拡幅してリヤカーが通れるようにし、葭沢の薪炭倉庫まで運んだということである。後には、切り出した木材運搬のためにあるいは他事業のためトラックが入れるように拡幅工事がおこなわれたようである。古屋敷からは、後には薪炭もトラックで運び出されるようになった。

なお、不動滝のさらに上、「幻の大滝」東側近辺の薪炭は峰へ運び上げ、旧万世大路のヘアピンカーブ箇所(カエル岩手前付近)まで索道(ロープウエー)により運搬したという(高野英治さん、木村義吉さん談)。その索道の西側、「幻の大滝」の上流には段々に連なった見事な十三滝も見る事ができたそうである。そのさらに西側には、葡萄沢山(標高967.3m、三等三角点)がありその直下に東栗子トンネルが走っている。

赤岩道について

さて、この赤岩道については、大滝会HP(管理人紺野文英様)に次のような説明がある。前置きが長くなるけれども、本論に入る前に触れておきたい。

「この大滝⇄赤岩道は、大滝から福島へ出る最短の大滝居住者にとっては大切な生活道路として、大滝木炭組合がトラックを所有し、さらに万世大路を福島交通のバスが飯坂温泉へ一日二往復運行されるようになる昭和30年代前半まで利用されていました。そして国道13号バイパス道路が整備されると、大滝ではバイクを所有する家が増え全く利用されることがなくなり現在に至っています。」(大滝会HP「大滝⇄赤岩道探索」(2009-11-26))

もともとこの赤岩道は、大滝集落から奥羽本線赤岩駅まで人が通れる道路として昭和7年に設置されたようである(もっとも古屋敷までは、大滝不動尊への参詣道路としてもともと小径があったと思われる。後述参照)。『わが大滝の記録』には次のように記されている。

「昭和7年(1932)9月、救済事業とし3600円の予算で赤岩道(大滝から奥羽本線赤岩駅まで)の開削工事があり男21人、女29人が出て生活資金を得る。」(前掲書PDF版24頁)。

すなわち赤岩道の開削は、昭和7年から昭和9年にかけて実施された時局匡救事業(注)の失業対策土木事業の一環であろう。内務省所管ではなく農林省所管事業であったと思われる。

のちにこの道路は、大滝集落では救済道と通称されていたようである(大滝会榎木新吉さん談)。この赤岩道(4km)は、当時街(福島)へ出る最短ルートで、大滝不動尊への参詣道路にもなっており大いに利用された。大滝の人達は、前述のように草刈りなど道路の維持管理整備に努めていたようである。確認していないが赤岩道は現在「林道」扱い(道路法上の道路ではない)になってい

て福島市管理となっているのではなかろうか。因みに赤岩道の起点となる旧万世大路は、現在「市道長老沢線」となっている。

【赤岩道の HP】

- 「大滝⇄赤岩道探索」(2009-11-26)

猫旅おば様ご一行(探索経路図面もあり)

<http://ootaki.xsrv.jp/page159.html>

※注 時局匡救事業

昭和初期の金融恐慌、世界恐慌などをうけて、昭和7~9年に全国で展開された不況対策事業で、内務省と農林省所管の土木事業が中心であった。いわゆる高橋財政(高橋是清)の2本柱は、不況対策としての時局匡救事業費と、満州事変費を中心とする軍事費であった。高橋是清(1854~1936)は、旧仙台藩士で内閣総理大臣、大蔵大臣(6回)を務める。後に膨張する軍事費の縮小を図ったため軍部の恨みを買って昭和11年(1936)、二・二六事件で暗殺される。

今回の散策記は、赤岩道について述べるのが目的ではないけれども、さらに若干補足しておきたい。明治41年発行の旧陸地測量部(国土地理院の前身)の5万分の1地形図を見ると、後の赤岩道起点となる「大滝曲がり角」付近から小径(幅1m未満、市町村道でもない)が、現赤岩道とほぼ同じ位置の大滝川右岸沿いに表示されている。小径は、古屋敷奥の大滝川沿いになお進み葡萄沢山山頂近くまで続いている。一方、小径は古屋敷で別れ、後の大笹生大平地区を通過して松川まで(奥羽本線赤岩駅から福島側へ約1.3km付近)進み、大笹生安養寺まで松川沿いに続いている。なお、古屋敷から大滝川左支川の不動沢(旧中野村と旧大笹生村の村界)沿いに小径の表示はない。

因みに、南奥羽線(奥羽本線)福島~米沢間は、明治32年(1899年)5月に開通している。

また、昭和28年発行の5万分の1地形図(国土地理院)を見ると、大平地区が表示され(昭和21年、大平開拓組合設立。『福島の町と村』II近現代編304頁)、前記の小径が大平地区で分かれ赤岩駅まで続いているように見える(途中切れている)。

昭和7年の赤岩道の開設とは、この小径を徒歩道として整備し赤岩駅まで通れるようにしたことではないだろうか。すなわち、「曲がり角付近」→古屋敷→菱川→大平(旧大笹生村)→赤岩駅、のルートと思われる。

大滝不動尊・不動滝まで

前置きが少し長すぎたけれども「大滝不動尊・不動滝」までの山歩きについて報告する。

今回の山歩きでは、かつての参詣道と思われる山道(赤岩道含む)を行ったわけだけでも、前述のような道標などはなく賑やかであったという往時の面影を感じることはできませんでした。

ただその道標ではないけれども古タイヤや古電柱、古酸素ボンベ等を利用した奇妙な標柱が赤岩道や旧万世大路などあちこちに見受けられた。書いてある内容についても現況では理解できないものが多い(これらは、かつてあった民間観光施設「大滝宿」=昭和57年6月、旧大滝集落を利用して芝居小屋などの施設を菅野正輔氏が設置=の関係のものではと推測している。一時殷賑を極めたようであるが「大滝宿」は10年程度で廃止)。

旧万世大路「大滝曲がり角」付近の赤岩道起点から往復約6km(携帯電話距離計)、時間は休憩を含み約4時間の行程でした。不動沢沿いの濃い緑が美しく、また途中の野草の花々が心を和ませてくれます(巻末附録写真集参照)。

途中には若干の危険箇所があるものの、我々ロートルの散策には最適のコースのように思われる。

なお、掲載写真は当日(平成25年6月30日)撮影のものと、以前に撮影したものがある。以前のものには、撮影月日を記載すると共に「参考」と表示してある。

入口起点（写真①②）から少し進むと赤岩道は大滝川の右岸沿いになり道幅も広がっている。



① 旧国道 13 号(旧万世大路)、赤岩道入り口(電柱箇所)、米沢側(曲がり角)から望む。



②(参考)福島側から赤岩道入口を望む。右側に古酸素ポンベの標柱(「一の滝、二の滝…」)。H241118 撮



③(参考)大滝川右支川首尾戸沢に架かる赤岩道旧道の橋梁遺構、上流から望む。右岸野面石積の橋台、左岸橋台崩壊。正面は現赤岩道下の暗渠(コルゲートパイプ)。H241223 撮

しかしこれは、かつて人だけが通れる狭い幅員の徒歩道であったものを、前述のように戦後改修した道路のようである。赤岩道を上ってすぐに首尾戸沢を横断する(暗渠コルゲートパイプ)が、その上流側にUの字形に赤岩道の旧道が残っている。沢にはかつて橋が架かっていたようで、橋台遺構(野面石積^{のづらいしづみ})を見ることができる(写真③)。この旧道の幅員は2m程度であろう。

起点から 0.5 km ほど進むと、その設置時期は分からないけれども(昭和 40 年代前半か)、落差の結構ある比較的大きい砂防ダムを右側に見ることができる(写真④)。



④(参考)大滝川砂防ダム H241223 撮

この大滝川は、1 級水系阿武隈川水系に属し、1 級河川阿武隈川の右支川(1 次支川)摺上川の右支川(2 次支川)小川のそのまた右支川(3 次支川)である。小川(河川名)は 1 級河川の指定区間として福島県知事管理、大滝川(不動沢も)は、普通河川として福島市長管理となっているようである。砂防ダムについては、福島県において施工されたもののようにある。

途中には、例の奇妙な標柱が立っている(写真⑤)。



⑤ 赤岩道を進むと奇妙な標柱あり
(民間観光施設「旧大滝宿」関連か)。
赤岩方面を望む



⑥ 「大瀧水神」(起点から約 1.3km)。
右上に旧赤岩道が見える。

さらに、赤岩道起点から 1.3 km ほど進むと右カーブの所に出て、左側に小さな鳥居が見え「大瀧水神」の額が掲げられている (写真⑥)。



⑦ 旧赤岩道と杉並木、リヤカーが通行できるように拡幅したという。

その道路反対側の路肩には清水がコンコンと湧き出していた。この鳥居の箇所は丁度沢筋になっており、鳥居の背面、向かって右側の方に旧道のようなものが残っていて杉並木がある (写真⑦)。これがかつての赤岩道のように、そのまま真っ直ぐ行けば菱川や大平を経由して奥羽本線赤岩駅に向かう (前述参照)。その奥で右に曲がれば大滝不動尊への参詣道になる。後述の林道取付箇所に出るのであろう。旧道の幅員は 2m 前後と思われる。

その鳥居箇所から 200m ほど進むと右側に杉林がありその少し先に林道が取付いている。前記注で記しているとおり、その辺りが古屋敷地区である (写真⑧⑨)。



⑧ 赤岩道・林道分岐点(起点から約 1.5km)。赤岩方面を望む。



⑨ 古屋敷、赤岩道・林道分岐点付近から広場と廃屋を望む。廃屋は伐採作業用の宿泊小屋。写真左側が林道、不動尊方向を望む。

その林道を入ると少し広い場所があり右側に廃屋が建っている。その廃屋は、かつて木材の伐採作業をするための宿泊小屋であるという (写真⑩)。また、この辺りには畑もあったとのこと



⑩ 林道起点付近の広場と廃屋(伐採作業用宿泊所)

ある。ここで我々は小休憩を取り 11 時半過ぎ、不動滝に向け出発した。

さて、林道を進むとすぐに大滝川にぶつかる (写真⑪)。



⑪ 林道・最初の渡河地点大滝川、不動滝方向を望む。

川の中を横切って林道が通っている形になっている。また、すぐに大滝川左支川の不動沢があり、

林道はまた横切って進む (写真⑫)。



⑫ 林道・2 番目の渡河地点不動沢、不動滝方向を望む。

この後林道は途中で左に分かれ沢沿いの山道 (大滝不動尊参道) に入る (写真⑬)。



⑬ 林道から不動滝山道分岐点、不動滝方向を望む。

山道は、比較的平坦で不動沢の左岸や右岸になりながら進む。つまり所々で不動沢を横断して進むのである (写真⑭)。



⑭ 不動沢沿い山道を行く。山道は右岸になったり左岸になったり。

往時と違い参道の除草などはおこなわれていないようで、夜に降った雨に丈の高い草が濡れていて、衣服がそれに接触するのでかなり濡れた（写真⑮）。この辺りは国有林のようで、注意書きを表示している前橋営林局（現関東森林管理局）の表示板がブナの木に飲み込まれていた（写真⑯）。



⑮ 場所によって、山道は丈の高い草木に覆われ少し離れると先導者が見えなくなる。



⑯ 前橋営林局（現関東森林管理局）注意看板

途中、山道に石積が施されているころもあって先人達の苦労が偲ばれる（写真⑰）。これは、前述したように山道を薪炭運搬路として補修した際に施工されたものかもしれない（写真⑱）。



⑰ 山道（参道）のための野面石積、先人のご苦労を偲ぶ。



⑱（参考）不動滝山道を改修、「薪炭運搬道」道普請中（昭和35年頃）の大滝集落の皆様（古屋敷～不動滝中間点付近）。大滝会会長木村義吉様提供。

さて、歩き始めて1時間半ほどで、当該山道の最大の難所と云われる浅い谷間に到着した。かつてここには小さな橋が架かっていたようで、不動滝の上で生産した薪炭をリヤカーに積みその橋を渡って運んだと云うことである。その谷間を渡り対岸を上って行く（写真⑲⑳）。

するとすぐに立派な石積（野面石積）が左側に見えてきて、その上は少し広い平場となっていた。ここには戦後暫くの間、修行者のための建物が建っていたそうである（写真㉑）。

その場所を過ぎて沢の方へ下りて行くと、左手前方に大滝不動尊のお籠もり堂が見えてくる。また、地形の関係で見えなかった不動滝が眼前に見えてきた。12時過ぎに到着、沢を挟んで正面に見事な不動滝を見たときは感激ひとしおでした（写真㉒）。不動滝の方へは、不動沢の支流に丸木橋がありそれを渡って行く。



⑱ 不動沢山道、最大の難所谷渡り箇所。下流側望む。



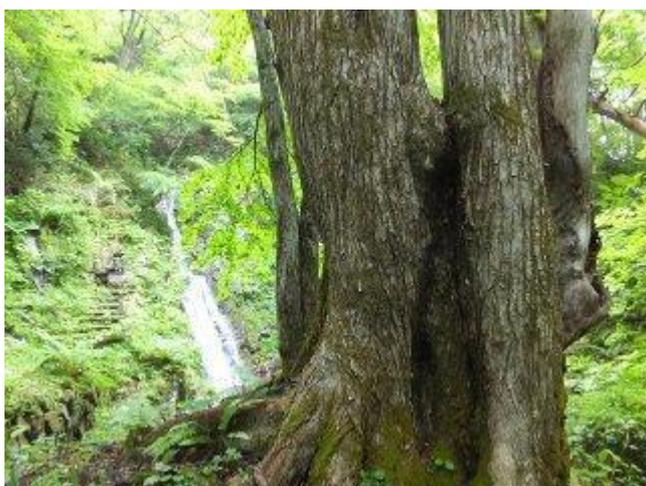
⑳ 山道最大難所の谷を渡る。不動滝まであと数分、平場箇所野面石積手前。(山口屋さん提供)



㉑ 谷間を渡ってすぐ野面石積が続く。石積の上はちょっとした平坦地になっている。



㉒ 感激の大滝不動尊全景。不動沢支流対岸より望む。右不動滝、左上お籠もり堂、その下の支流に丸木橋(人が渡っている)。



㉓ ご神木のような桂の大木の下から石積の参道が続く。



㉔ あたかもご神木のように高くそびえる滝そばの桂の大木。

対岸には、高く^{そび}えた、ご神木を思わせるような桂^{かつら}の大木がある(写真㉓㉔)。

その下には、沢から石積（野面石）が立ち上がって参道になっている。参道の先には石段があり上り詰めたところ、滝のすぐ脇に不動尊が鎮座しておられる（写真②⑤⑥）。また、石段の上り口には、石灯籠があったようだが倒壊していた（写真⑦）。昭和51年の写真では、この不動尊には上屋うわやがあったようである（PDF版41頁）。しかし現在はない。



⑤ 大滝不動尊と不動滝全景。石積参道と中央上に「不動尊」その左下清水（白いパイプ）、石段中央の標石に「水神竜神大神」とあり、石段上り口に倒壊石灯籠の頭部が見える。



⑥ 大滝不動尊とその左下清水（パイプ）

その不動尊の左下からは、たんたら清水のように僅かな湧水が筒先から出ていた。湧水を飲んでみたがなかなか美味である。また、山口屋さんがその清水を使って湯を沸かし味噌汁をつくれ、筆者もお相伴しょうばんに与あづかったけれども、これがまた頗すこぶる美味である。

さて、この不動滝の落差は20mくらいであろうか。「大滝」集落の名前の由来となった「大滝」は、実はこの不動滝のさらに2kmほど上流にある「幻の大滝」であるという（前記HP掲載記事参照）。しかし、この不動滝もなかなか立派なもので、大滝の名の由来と云っても十分に通用するのではなかろうか（写真②⑧～⑩）。



⑦ 大滝不動尊石灯籠（倒壊）石灯籠建立の寄進者の記名版か。



⑧ 不動滝（その1）



⑨ 不動滝（その2）



③⑩ 不動滝上段



③⑪ 不動滝中段



③⑫ 不動滝の滝壺



③⑬ 大滝不動尊の上の状況、この上のブナ林でかつて炭焼きがおこなわれた。



③⑭(参考) 赤岩道から国道 13 号を望む。左、現西川橋。その上に工事中の東北中央自動車道栗子トンネル福島側坑口。右側はズリ出し用の連続ベルトコン他工事施設。下の林は大滝(胡桃平)集落跡 H241223 撮

不動滝では、昼食を取ったり辺りを観察したりして1時間ほど滞在し1時過ぎ帰路についた。往路の時は気付かなかったけれども、道脇の法面の^{のりめん}のあちこちでキイチゴをみかけた。

透き通った黄色の実を沢山付けていて食べてみたらこれがとても甘くて美味しい。

また、赤岩道からの唯一のビューポイントと思われる箇所からは、現在工事中の東北中央自動車道栗子トンネル(L=8972m、平成 29 年度供用

予定)の工事現場と現国道13号を見ることができる(写真③④)。写真にある工事用連続ベルトコンベアの位置が東北中央自動車道になる。

これは全くの蛇足である。写真③④には写っていないけれども、写真のすぐ右側には東北中央自動車道大滝トンネル(L=353m、H19.6完成)、国道13号大滝第1トンネル(L=200m、S40.3完成)がある。その中央道大滝トンネルの米沢側坑口手前の道路下には、林道用の横断地下道が設置されているので紹介しておきたい。この地下道は、瀬戸の沢の流末処理も兼ねており上流には床固め(小型の砂防ダム)も設置されている(写真③⑤⑥)。



③⑤(参考)左、東北中央自動車道大滝トンネル。
右、国道13号大滝第1トンネル。いずれも米沢側坑口。左上は、栗子トンネル工事用ベルトコンベア終点ずり集積所。H250630撮



③⑥(参考)東北中央自動車道大滝トンネル米沢側坑口と林道用横断地下道。左上奥は、瀬戸の沢源流。国道13号から撮影 H250630撮

おわりに

今回もまた山口屋さんにご案内をお願いし貴重な体験を致しました。また、本稿記述に当たっては大滝会会長の木村義吉さんから多くのことを教えて頂きました。大滝会HP管理人紺野文英さんにはいつもの通り写真の編集と、それから野草の解説(名前調べ)等をして頂きました。

皆様に厚く御礼を申し上げます。

機会があれば「幻の大滝」、「十三滝」も是非訪れてみたいものである。

なお、赤岩道については情報が少ないので、お心当たりの方がおられれば情報提供方よろしく願いしたいと存じます。

次ページに、道中心を和ませてくれた山野草写真を附録として添付した。



蝦夷紫陽花(エゾアジサイ) (アジサイ科)



ミヤマカラマツソウ (キンボウゲ科)



ミズタビラコ（ムラサキ科）花の終わり頃



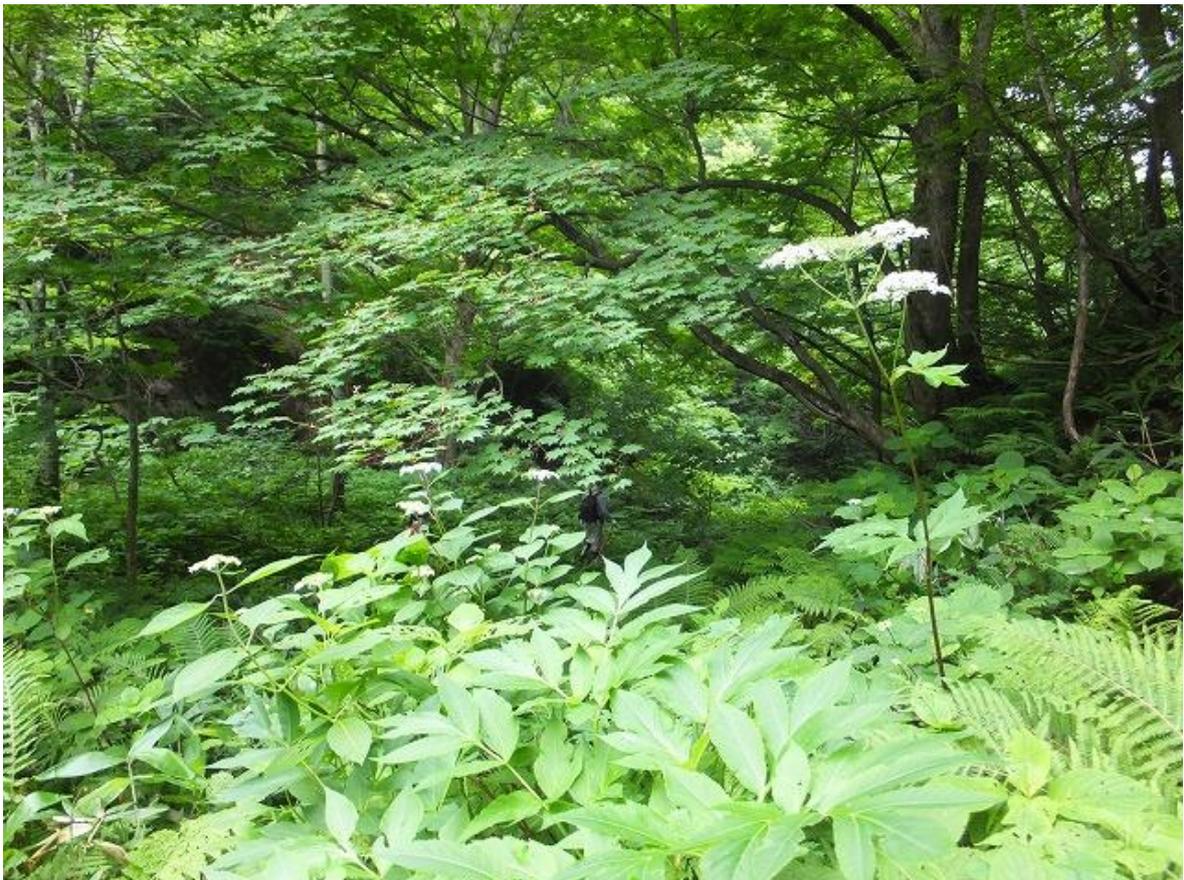
中央：オオイタドリ（タデ科）

右端：シシウド（セリ科）



上:ウリノキ (ウリノキ科)

下:シシウドの葉



中央:ヒヨドリバナ (キク科)

右:シシウド (セリ科)



山椒 (ミカン科)



左:オコトラノオ (サクラソウ科) 右:エゾアジサイ

完